

探訪 新ライフスタイル

2020年11月、東京都台東区浅草の観光商業施設「まるごとっぽん」が一層閉鎖した。15年に劇場や飲食店が集まる「浅草六区」に鳴り物入りで開業したが、営業期間はわずか5年と短命に終わった。現在跡地には一部継続店舗に加えユニクロが入居している。まるごとっぽんは、全

ライフスタイル

コロナ後の浅草 にぎわい回復策



花柳街では芸者らが培ってきたもてなしの文化がにぎわい回復のカギとなる

「静」と「動」の伝統に回帰

国各地の食材や工芸品、土産品、媛産みかんジュースがメダリアに取り上げられるなど。数回伸び悩んでいたよう。東京五輪の延期や新型コロナウイルス問題だけが原因ではないことは確かだ。再訪するだけの魅力が希薄か、浅草の土地柄に合わなかったのかと推測される。浅草は明治、大正、昭和と東京の代表的な下町繁華街として繁栄してきた。浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

たものの、舞踏や太鼓など確かな芸で江戸の伝統文化を伝え続けている。いわば「静」の伝統に回帰する精神が宿っているように感じる。近隣の荒川区でゴム・樹脂加工工場を経営し、花柳文化にも詳しい藤岡健彦さんは、浅草について「銀座でも六本木でもない、江戸の習わしの良さが息づいている」と話す。

コロナウイルス問題だけが原因ではないことは確かだ。再訪するだけの魅力が希薄か、浅草の土地柄に合わなかったのかと推測される。浅草は明治、大正、昭和と東京の代表的な下町繁華街として繁栄してきた。浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

浅草寺の西側に位置する浅草六区は大衆娯楽の中心地であり「動のにぎわい」を演出する。一方で同寺北側の観音裏と呼ばれる「浅草花街(かがい)」は料亭が立ち並び、芸者衆は現在15人程度まで減ってしまった

宮代さんは、食の作法や着付けのしきたりを学べるマナー講座も開いている。講座では江戸の色彩、伝統建築など和 문화の由来なども詳しく説明し、浅草の魅力を広く知ってもらおうと工夫する。

浅草花街には見番(けんぼん)、花柳界の事務所、料亭、割烹(かっぽう)、小料理店、喫茶店などが集まり「おもてなし」の品位を感じさせる。お客、芸者、地域の三方良しで街を育て

浅草花街には見番(けんぼん)、花柳界の事務所、料亭、割烹(かっぽう)、小料理店、喫茶店などが集まり「おもてなし」の品位を感じさせる。お客、芸者、地域の三方良しで街を育て

浅草花街には見番(けんぼん)、花柳界の事務所、料亭、割烹(かっぽう)、小料理店、喫茶店などが集まり「おもてなし」の品位を感じさせる。お客、芸者、地域の三方良しで街を育て

浅草花街には見番(けんぼん)、花柳界の事務所、料亭、割烹(かっぽう)、小料理店、喫茶店などが集まり「おもてなし」の品位を感じさせる。お客、芸者、地域の三方良しで街を育て

(商い創造研究所代表 松本大地)